

大自在

△健康でありたい▽と誰しも望むが、△健康とは何か▽と聞かれて答えることは意外に難しい。世界保健機関(WHO)は健康を「単に疾病がないとか虚弱でない状態ではなく、身体的・心理的・社会的に完全に良好な状態▽と定義する。ただ、専門家の批判も多いらしい▼「完全に良好とうたっても健康と病気をはつきり分けられますか」。先日、静岡市で開かれた健康・長寿学術フォーラム。聴講した討論集会で静岡大大学院の松田純特任教授は、特に「完全に」のくだりが問題と指摘した▼医療が感染症に勝利を収めつつあったWHO設立当時と、主要な対象が慢性疾患や難病、加齢に伴う機能低下に移った今日とでは状況は異なる。完全な状態への復帰を医療の使命というなら、治癒困難な患者への医療は無用とされかねない▼新たな健康観として松田教授が評価するのは、オランダの女性医師フーバーらが6年前に提案した概念だ。人が本来持つ、しなやかな復元力に着目。健康を△社会的・身体的・感情的問題に直面したとき、適応し何とかやりくりする能力▽と捉え直した▼人間は元々弱く傷つきやすい存在。それを補完し、復元力を高めるには「地域での人と人とのつながりが大切」と松田教授。新概念の意義について「治す医療」から「支える医療」への転換と考えている▼さて、わが身を振り返れば不摂生の付けで薬と通院は欠かせず、家族や同僚に助けられながら、病気と健康の中間地帯を行く毎日……。どうにか適応してはいても、さびり上手と褒めてはもらえない。

2017.11.29